

そ こ さ し あ み

ぎ よ ぎ よ う

[がいこくじん ぎのうじっしゅうせい よう きょうざい]

だいにほんすいさんかい

はじめに

この きょうざいは あなたがた がいこくの かたがたが
にほんの 「そこさしあみ ぎょぎょう」の ぎのうじっしゅう
を うけるときに やくだつように さくせい しました。

なれない にほんごの きょうざいですが みなさんが
わかりやすいように 「そこさしあみ ぎょぎょう」 について
やさしく せつめいして あります。

もし わからない ところが あれば ぎのうじっしゅう
しどういんや にほんじんの のりくみんに しつもんして
きそてきな ちしきを いちにちも はやく みに つけて
ください

もくじ

1. そこさしあみ ぎよぎょう
2. そこさしあみ ぎよぎょうの ぎよぐ
3. そこさしあみ ぎよぎょうの ぎよじょう
4. そうぎょう
5. とった さかなの しより
6. きけんの ぼうし

1. そこさしあみ ぎょぎょう

ほそながい あみを うみの そこに しかけて うみの そこを およぐ さかなを とる ぎょぎょうです。

そこさしあみでは おもに ひらめ かれい ほっけ すけとうだら めだい かさご を とります。

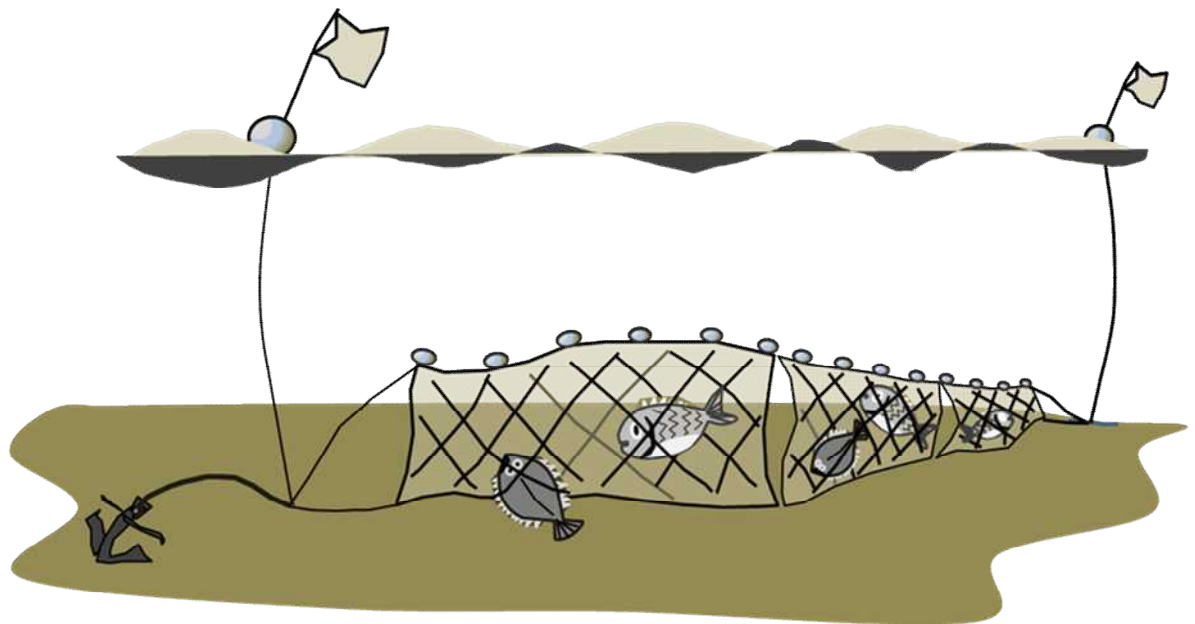
2. そこさしあみ ぎょぎょうの ぎょぐ

あみは ほそくて つよく かいちゅうで みえにくい いとで つくられて います。

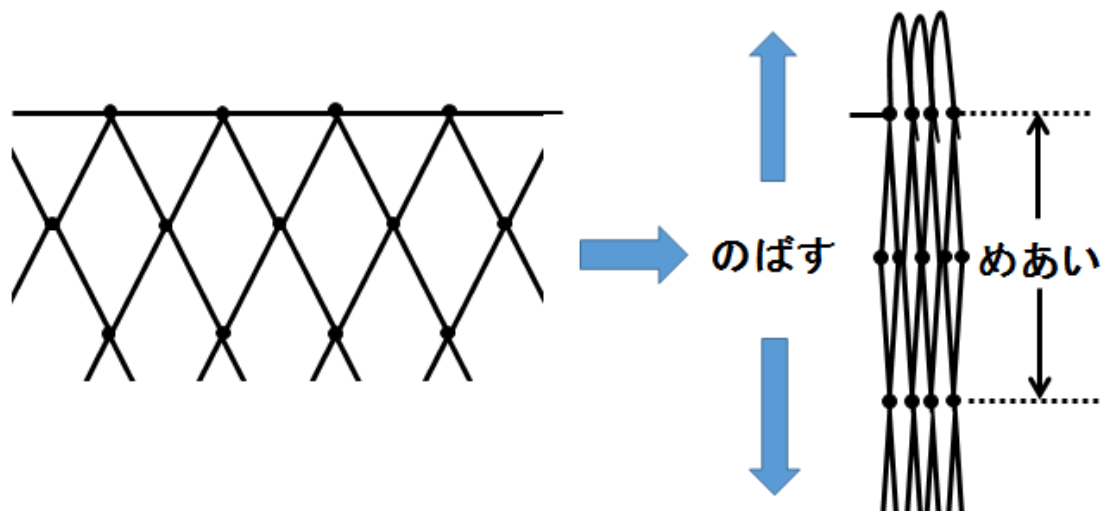
かいていに しずむように たくさんの おもりを つけた いわづなを あみじに つけます。

いわづなは なかに なまりの はいった ろーぷを つかいます。

かいていで あみが ひろがるように あばづなに あばを つけます。



したの えは あみの めあいを しめした ものです。



ながしあみの めあいは ちいきによって かわります。

1まいの あみを 1たん といいます。このあみを つなぎあわせて かいていに しかけます。

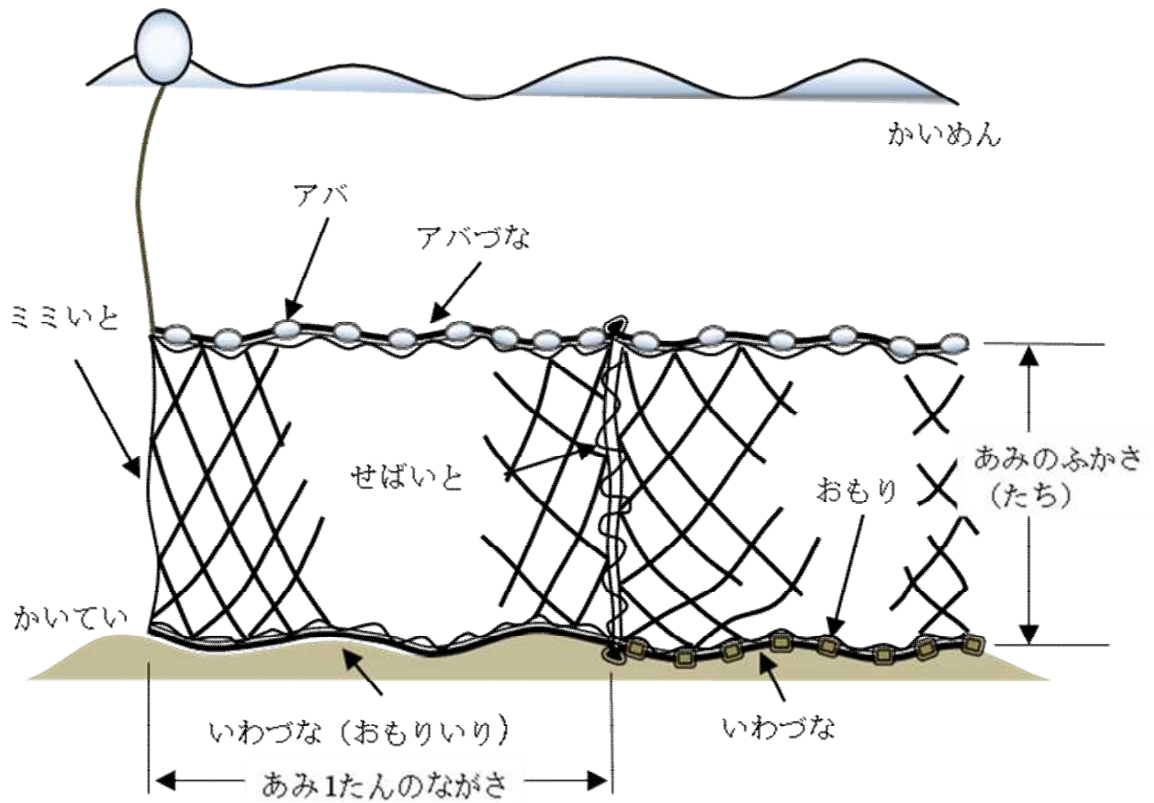
あみの ふかさ (たち) は やく 1~7めーとる (m) です。

つなぎあわせた あみの りょうはしに うきなわ (うけなわ) を つけ、そのすいめん りょうはしに めじるしうきを とりつけます。

さらに あみの りょうはしには、おもさ 5キロ (k g) くらいの あんかーを とりつけます。

そうぎょうじゅんぴでは 1たんずつの あみを つなぎます。つなぐときは あばづな と あばづな を つなぎ、いわづな と いわづな も つなぎます。あみめ と あみめ をつなぐこともあります。

このさぎょうを せばると いいます。このつなぎあわせる いとを せばいと といいます。



あばづな いわづなは むすびめが おおきく ならないように かたく むすび ろーぷの はしが あみに からまないように します。

あみが やぶれたときは みじかい いとを つかって あみが ひきつらないように ちゅういし かえるまで しゅうりします。

おおきな あなが あいた ばあいは べつな あみで ぱっちあて (いれあみ) しゅうりを します。

やぶれたあなが ひじょうに おおきい ばあいは 1たん ぜんぶを あたらしい あみと とりかえます。

3. そこさしあみ ぎよぎょうの ぎよじょう

ぎよぐんたんちきで かいていちけい や ちょうりゅう（しおのながれ）を しらべながら ぎよじょうを さがします。

あみは しおの ながれの ほうこうに とうもう（あみいれ）します。

したがって しおの ながれの ほうこうを みわけることが たいせつです。

4. そうぎょう

(1) とうもう（あみいれ）

ぎよじょうに ついたら はじめに あみを とめるための あんかーを います。そのあと じゅんばんに とうもう（あみいれ）していきます。

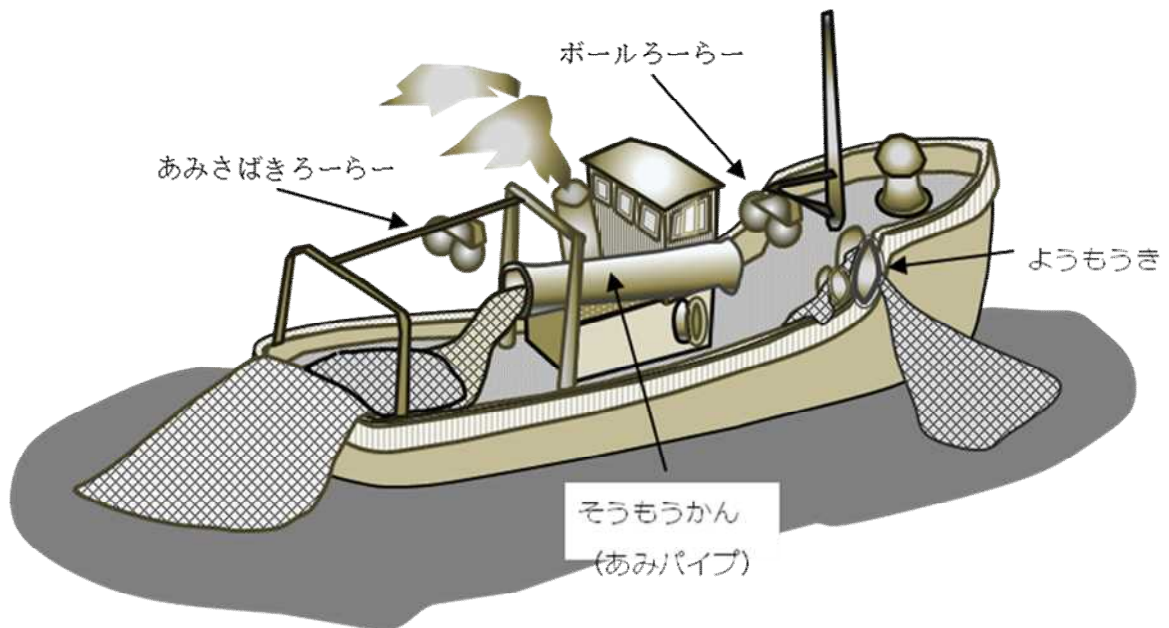
ふねの すび一どを おそくして とうもう（あみいれ）します。

このときに あみが からまずに よくひらくように とうもう（あみいれ）を します。

とうもう（あみいれ）が おわったら さいごに また あんかーを います。

あみまちして、ようもう（あげあみ）します。

(2) ようもう (あげあみ)



あみは おもて (せんしゅ) がわ から あげます。

あみをつよく はらないよう ふねの すびーど かじの とりかた
ねっとほーらー さいどろーらーの かいてんに きをつけて おこないます。

ようもう (あげあみ) に かかる じかんは あみの ながさ よって
かわります。

あみを ゆっくり まきあげながら かかった さかなを はずします。

あみは よこの ふといばいふを とおし ねつときやりやーで
ひっぱります。

ばいふから ひきだされた あみは、つぎの とうもうの ために、あばづ
な と いわづなが からまないように ひろげて つみかさねて いきます。

5. とった さかなの しより

さかなを はずすときには きずをつけないように ていねいに
とりあつかいます。

とった さかなは、みずあらいし くだいた こおりを かけて
ほぞうします。

6. きけんの ぼうし

とうもう (あみいれ) のときは あみや ろーぷが あしに からまない
ように ちゅういします。

とうもう (あみいれ) のときや ようもう (あげあみ) のときは かいてん
している ろーらーに まきこまれないように ちゅういします。